

児童詩（４年） 新しい目で

● 指導目標

身近な事象を見つめ直し、発見したこと想像したことなどを詩に書く。

● 教材について

４年生では、題材を選ぶ観点や視点を広げることがねらっている。あたりまえのことと置いていた身のまわりのことでも視点を変えて見つめ直したり、今までとは違った見方や行動をして想像したりすることを「新しい目で」ととらえる。また、４年生は、練り上げられた言葉で表現することを意識させたい学年でもある。構成を考えたり、自分の気持ちにぴったりした詩の技法を選んだりして、書きたい中心が伝わるように書くことも意識させていきたい。同時に、読み返して気持ちにぴったり合わない表現のときには、書き変えることも指導していきたい。書きたい気持ちや詩の雰囲気合った技法になっているか、見たまま聞いたままに書いたほうがよいところはないか、経験した自分でなければ書けない表現になっているかを吟味させるため、見直しの観点を提示して書き終わったら読み返すように指導していきたい。

「夕日」は、しずんでいく夕日の様子（大きさ）や山の様子を、時間の経過を追いながら現在形でスケッチし、力強さと臨場感、絵画のような印象を与えている作品である。会話や呼びかけが自然に感動の高まりを作り、現在形の描写で終わる方法も余韻を残す。感動の中心と詩の構成・技法が、ぴったり合った作品である。学習にあたっては、こうした作者の工夫に気づかせ、自分の作品に生かすようにさせたい。「北風」は、茶碗を耳に当てるといいうつもと違う行動が発見につながり、さらに想像を広げて書いている。比喻と想像、題が効果的で、詩の書き方がわからない子供の参考になるであろう。特に最後の二行には、詩的な想像の世界へと読み手を引き込む言葉の力がある。本時では、詩の言葉を磨く観点から、「北風」の技法をまねて詩を書く活動を組み入れた。

二編の詩の鑑賞から題材・着眼点へのヒントを示して、子供たちの書く意欲を引き出しながら創作へと結びつけ、詩ならではの言葉の美しさや響き、リズムなどに着目させていきたい。さらに、書いた作品を友達と読み合って作品集を作ることによって、お互いのよさに気づき、書く喜びへとつなげていきたい。子供たちは、学習をとおして、日常の中に価値あることを見つけ感動する感性を育み、豊かな心を育てていくことができるであろう。指導にあたっては、読書の時間や、朝自習、朝の会・帰りの会などを生かして、できるだけ多くの詩に親しませ、友達の書いた作品を読み合う場を設定して、書くことの日常化を図っていきたい。

「Ｂ書くこと」の目標と内容

目 標

- （１）相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。

内 容

- （１）書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。
- イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。
- ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。
- エ 書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。
- オ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること。

● 学習指導計画（全 6 時間）

展開時	学 習 活 動	留 意 点			
1 時	○ 表題「新しい目で」、詩「夕日」・「北風」を読んで、学習のめあてをとらえる。 1. 「夕日」・「北風」の題名読み、内容や言葉のイメージを想像して発表する。 2. 二編の詩を読み、題名から想像したと書かれている内容の違いについて話し合う。 ・ 想像したと比べて、違ったことはありませんか。 ・ 上手だと思った書き方のところはありませんか。 予想・イメージ 比べてみて <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> ・「夕日」... ・「北風」... </td> <td style="width: 10%; text-align: center;">  </td> <td style="width: 60%; text-align: center;"> ・ ... ・ ... </td> </tr> </table> 3. 「新しい目で」題材をさがす観点を話し合う。 ・ 「夕日」「北風」は いつもと違うことをした観点であることをおさえる。 ・ プリントの詩を読み、新しい視点から観点をつかむ。 新しい目で いつもとちがうことをしたり、 いつもとちがう立場や物になったり、 一つのことを長い間じっと見続けたり、 して詩を書こう。 ・ 新しい書き表し方で、詩を書こう。 4. ~ の観点にそって体験を発表する。 5. 生活の中から、観点にそって新しい題材を探すことをめあてにもつ。 ・ いつもと違う場所から観察したり、立場を変えて考えたり、動植物になったつもりで想像したりして、気がついたことをメモしていきましょう。 6. 学習の終わりに、発表会をすることを知る。	・「夕日」... ・「北風」...		・ ... ・ ...	・ 1 時間の話し合いの中から、詩を書く観点にできそうな意見を短冊化し、集材・選材・記述・推敲の授業に生かす。 ・ 自分たちの想像したと詩を読み比べることによって、作者ならではの発見や想像に気づかせる。 関：作者の物の見方（視点）や表現の工夫（題、構成、比喩、余韻など）を考えようとしている。（発表・観察） ・ 詩集から数編詩を選び、プリントしておく。観点 虫になった視点の作品、母を見直した作品などを用意して読み聞かせ、詩を書く観点を広げておく。 ・ 題材集めには、一週間程度の時間を取りたい。既成概念から離れるため、生活の中で、新しい目で見ていた発言をとらえ、ワークシートにメモするようにアドバイスしていく。
・「夕日」... ・「北風」...		・ ... ・ ...			
2 時	○ 「北風」の表現の工夫について確かめ合い、比喩を使った短い詩を書く。 1. 「北風」を視写し、表現技法を確かめる。 2. 比喩遊びをする。 3. 詩に書きたいことをワークシートにメモする。 4. 詩に書き、見直して作品を完成する。 5. 発表し合い、表現のよさを認め合う。	・ 後ろ向きに歩く、逆さまに物を見る、プールで目を開けるなど共通体験をさせておく。 ・ 「短冊：詩を書く観点」を掲示する。 書：思い出したり想像したりしてメモしている。 （ワークシート） 書：学習したことを生かし、比喩を使って書いている。（作品）			

展開時	学 習 活 動	留 意 点
3 時	○「夕日」を視写し，作者が心を動かされたことや，詩の書き表し方の工夫，好きなところについて話し合う。 1．視写し，表現の工夫や気がついたことを書き込む。 2．発表して話し合う。 3．今までに書いた作品の「結」の部分を，余韻を残した表現に書き換えてみる。(離れた場所から見たことを) 4．比較して表現の効果を話し合う。 5．「北風」「夕日」を学習したことをもとに，自分の作品に生かす視点から感想をまとめる。	・1時間の話し合いの中から，詩を書く観点にできそうな意見を短冊化し，集材・選材・記述・推敲の授業に生かす。 関：作者が心を強く動かされたこと，感動を伝えるための表現の工夫について発表しようとしている。(発表) ・詩の後の解説と結びつけながら考えるよう助言する。 ・学習した上手な表現でも，作品によっては合わないこともあることに気づかせる。 関：感想をまとめている。 (ノート)
4 時 (本時)	○「新しい目で」発見したり想像したりしたことから詩の題材を選び，ワークシートに書く。 1．生活の中や体験ノートから，発見したり想像したりして心が動いたことをワークシートに書き足す。 2．メモの中からいちばん書きたいことに赤丸をつけて詩に書く題材を決め，気持ちにぴったりの言葉をワークシートに書く。	書：新しく発見したり想像したりしたことを題材に選んで書いている。いちばん心が動いたことを一つ選んでいる。 (ワークシート) ・「短冊：詩を書く観点」を掲示する。
5 時	○「新しい目で」発見したり想像したりしたことを，感動にぴったり合う表現を選んで詩に書く。 1．ノート「自分の作品に生かしたいこと」を読み返し，書くめあてをもつ。 2．心が動かされたことを，表現を工夫して詩に書く。 3．読み返して，自分の気持ちに合うように表現を吟味したり，大げさな表現を削ったりして書いた詩を見直す。 4．読み返して，ノートのめあてを使えたかどうか振り返る。	・「短冊：詩を書く観点」。 書：学習したことを生かして表現を工夫し，自分の言葉で書いている。(作品) 言：句読点を打ち，言葉を選んで書いている。(作品) ・声に出して読ませ，工夫できる点がないか考えさせる。 ・一部を使えていればよい。
6 時	○作品を友達と読み合って，感想を交流する。 1．読み合って，よい表現やその作者らしい発見・感じ方，アドバイスを付箋紙に書き合う。 2．必要と考えれば，アドバイスに応じて推敲する。 ＜交流の仕方を多様に＞ ・詩画集にして掲示 ・発表会(グループごと) ・声の発表会(グループごとに詩をつないで) ・詩の録音テープ作り	関：友達の作品のよいところや，アドバイスすること(句読点・改行を中心に)を伝えようとしている。 (付箋紙，発言)

● 本時の展開（本時 4 / 6）

目標

- ・ 比喩を使って想像を広げ、詩に書くことができる。

● 展開例

学習活動・学習内容	留意点	評価・支援
1. 「北風」一斉音読。前時に学習した表現の工夫を発表する。 ・茶碗の音を比喻を使って書いている。 ・題の工夫。・目をつぶって想像した。 2. 学習課題を確かめる。	・前時間の学習を思い出させる。	・「短冊：詩を書く観点」を掲示する。
「北風」の詩で作者が工夫していた比ゆを使って、詩を書きましょう。		
3. 比喻遊びをする。 <例> 吹雪。それは、○○。 ～みたいだ。 4. 詩に書きたいことをワークシートにメモする。 ・体験した中から書くことを一つ選ぶ。 ・体験→五感で感じたこと→比喻、と広げて考え、メモを書く。(以下、板書例。)	・子供たちの生活から体感できる言葉を2・3例に取り、想像させるようにする。 ・「北風」を手がかりに書き方を知る。 ・比喻はいくつか考え、思いにぴったりした表現を選ぶようにさせる。	・直喩(～みたいだ)と暗喩(○○だ)を比較させ、暗喩で広がる豊かさに気づかせたい。 ・あらかじめ、プールの中で目を開けたり、後ろ向きに歩いたり、鉄棒にぶら
		下がって景色を見たりさせておく。 書：思い出したり想像したりしてメモしている。 (ワークシート) ・体験を五感をとおして思い出そう助言する。「北風」の比喻を参考にさせたり、「～みたい」「～のようだ」とひな型を与えたりする。
5. メモや学習したことを生かして詩に書き、見直しをして作品を完成する。 6. 発表し合い、表現のよさを認め合う。 7. 本時のまとめと次時の予告。	・書き終わったら板書を参考にして推敲するように指示する。 ・次時＝「夕日」の学習。	書：学習したことを生かし、比喻を使って書いている。 (作品) ・ワークシートを見直すよう助言する。

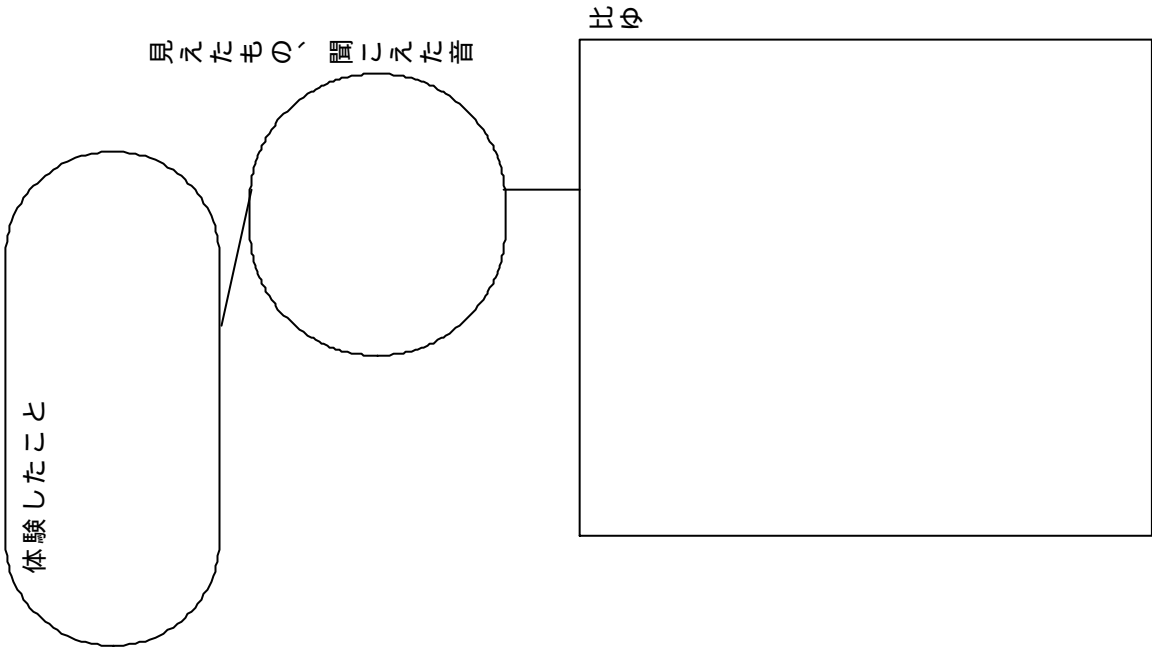
○比喩を使って詩を書きましょう。

名前

体験したことの中から書きたいことを一つ選んで、を付けましょう。

- ・ プールの中で目を開けた時のこと。
- ・ 後ろ向きに歩いてみた時のこと。
- ・ 鉄ぼうからさかさまに見た時のこと。

詩に書きたい、感動したいつしゅんのことをメモしましょう。



詩の題

スミヤキ羅したにとを主かして据に軸を据つて。

題

各編

✓なつたに